

(仮称) お茶と宇治のまち歴史公園の進捗状況及び「展示設計の概要」・
「史跡ゾーンの整備状況」について

(仮称)お茶と宇治のまち歴史公園整備運営事業につきましては、昨年10月より建設工事に着手し、各業務、歴史公園の開園に向けて鋭意取り組んでいるところです。

この度は、ミュージアムに係る展示の構成が一定まとまりましたことから、「事業の進捗状況」並びに「展示設計の概要」及び「史跡ゾーンの整備状況」について報告します。

1. 事業の進捗状況
2. 「展示設計の概要」及び「要求水準の展示構成に係る提案からの主な変更点と効果」
3. 史跡ゾーンの整備状況

別紙 : 要求水準の展示構成に係る提案からの主な変更点と効果

添付資料 : (仮称) お茶と宇治のまち歴史公園整備運営事業 展示設計概要書

1. 事業の進捗状況

業 務	契約～現状 (R2.2月現在)	残内容
設 計	<ul style="list-style-type: none"> ・事前調査（現地・地質調査）完了 ・基本設計完了、実施設計完了 ・建築確認申請完了（R1.9月） ・展示設計（実施中） 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示設計、作成、製作
建 設	<ul style="list-style-type: none"> ・施工計画の作成 ・工事着手（R1.10月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示設置 ・施設引渡し（R2.11月予定）
維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・茶園及びシダレザクラの管理（実施中） ・「宇治市茶生産組合」とのアドバイザー契約の締結 	<ul style="list-style-type: none"> ・茶園及びシダレザクラの管理 ・施設全域（施設引渡し後～）
運 営	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方法の検討（実施中） ・連携企業（選定中・調整中） ・レストラン事業者（選定中） 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方法の決定（地元事業者との連携方法等） ・レストラン事業者の決定

2. 「展示設計の概要」及び「要求水準の展示構成に係る提案からの主な変更点と効果」

(1) 展示設計の概要

①展示設計業務の提案から設置までの流れ

- ・事業者からの提案

↓

- ・提案を基にした事業者と市との打合わせの実施
（事業契約書第27条（設計業務の進捗状況の確認））

↓

- ・打合せ内容を反映した展示設計（展示の構成）における「市による確認の実施」
（事業契約書第27条（設計業務の進捗状況の確認））

↓ **3/9 議会報告**

- ・展示設計（作成・製作）の実施（市との打合せ・確認）

↓

- ・展示設置

②「ゾーン」及び「展示」の構成内容

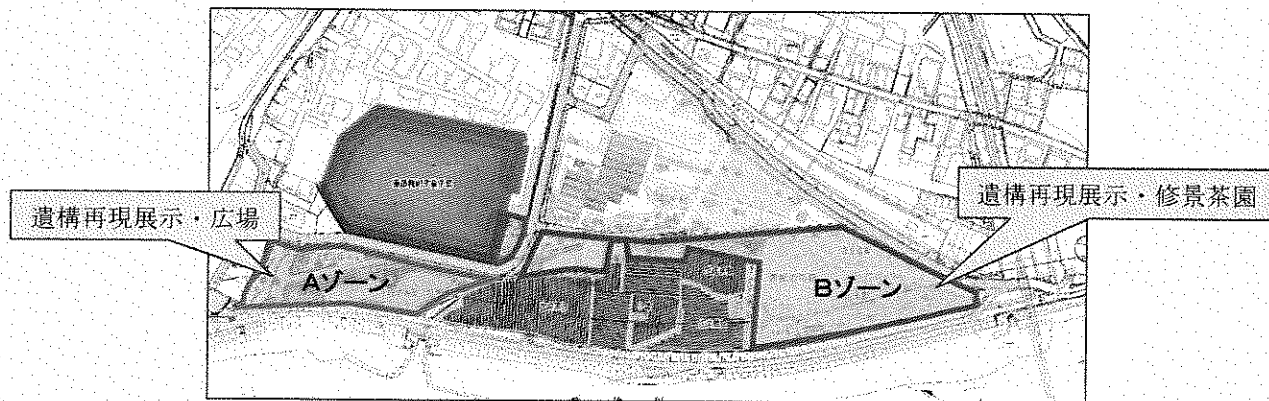
構成	提 案	変 更
ゾーン	<p>・「宇治茶と宇治の歴史ゾーン」 太閤堤をクローズアップしながら、宇治茶と宇治のまちの歴史をストーリーを持たせて紹介</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・「宇治茶 LIFE ゾーン」 お茶の淹れ方など宇治茶（日本茶）の生活文化や宇治茶の雑学等を紹介</p>	<p>・「お茶ゾーン」 宇治茶の概要や今日に至るまでの歴史を紹介し、宇治茶が高品質なブランドを保っている理由を紹介 お茶とその文化に親しんでもらうため、様々な切り口でお茶の魅力を紹介</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・「歴史ゾーン」 現代にも息づく宇治の歴史や文化をトピック展示として紹介 体験や没入感ある映像シアターで楽しみながら宇治の歴史・文化を紹介 【展示設計概要書（P.2 参照）】</p>
展示	<p>「宇治茶と宇治の歴史ゾーン」 プロローグ映像→宇治茶と宇治の歴史絵巻→太閤堤ものがたり→VR 宇治名所図</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「宇治茶 LIFE ゾーン」 暮らしと宇治茶→宇治茶トリビア→お茶の科学→企画展示</p>	<p>・「お茶ゾーン」 シンボルツリー→宇治茶ってどんなお茶→宇治茶物語→今日の茶づくり→お茶の解剖→宇治茶トリビア</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・「歴史ゾーン」 シンボル展示→記紀にも登場する宇治→平安時代の宇治→宇治橋をめぐる戦い→太閤堤とまちづくり→名所図絵に見る宇治→宇治ペディア 【展示設計概要書（P.2 参照）】</p>

(2) 要求水準の展示構成に係る提案からの主な変更点と効果

- ・別紙「要求水準の展示構成に係る提案からの主な変更点と効果」参照

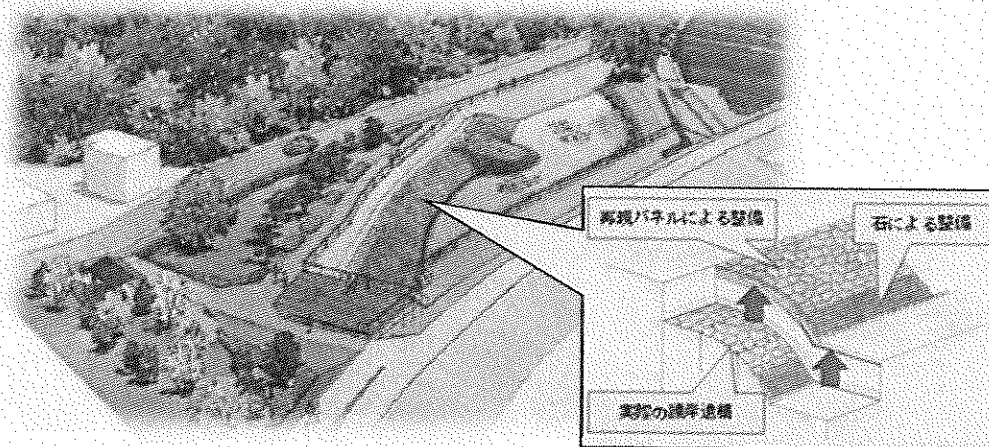
3. 史跡ゾーンの整備状況

史跡ゾーンでは、国史跡宇治川太閤堤跡の遺構を安全に保存するとともに、護岸遺跡が築造されてから埋没していく歴史の変遷や護岸の連続性・スケール感が伝えられるような整備を行います。Aゾーンでは太閤堤が宇治川護岸として機能していた安土・桃山時代の様子を、Bゾーンは護岸が砂に埋もれてしまった江戸時代から明治時代の様子を再現します。



①Aゾーンの整備（遺構再現展示・広場）

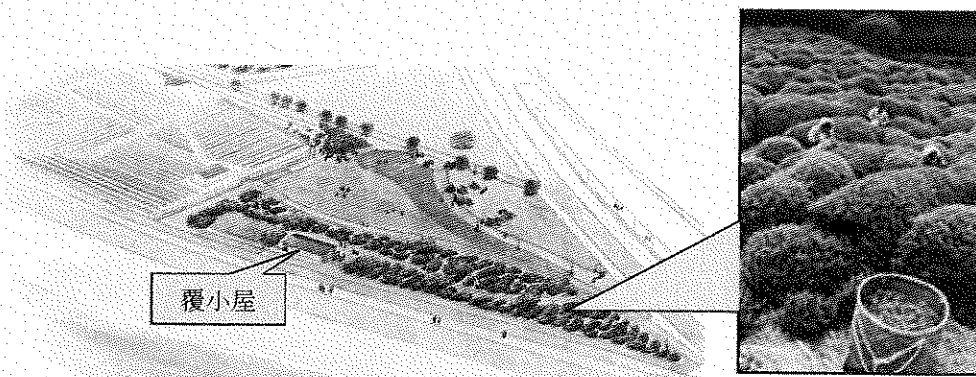
Aゾーンでは、現物遺構の直上に復元文化財として遺構を再現することとし、太閤堤前面の水辺空間と合わせて築堤当時の姿を再現します。



②Bゾーンの整備（遺構再現展示・修景茶園）

Bゾーンでは、太閤堤が造られた後に時間の経過とともに砂州が形成され、茶園として利用された時代を再現するとともに、茶摘み体験が行える修景茶園として整備します。

現代茶園とは異なる歴史的な茶園景観を再現するため、茶の木の配列を列状ではなく、絵図等に見られるような島状にし、太閤堤の埋没期の姿を再現するとともに、宇治茶の歴史を伝えます。



【史跡ゾーンの整備経緯と予定】

- ・ H27 : (Aゾーン) 遺構再現部の造成等
(Bゾーン) 茶園の造成
- ・ H28 : (Aゾーン) 遺構再現パネル設置
(Bゾーン) 茶木の植樹
- ・ H29 : (Aゾーン) 展望デッキ設置等
- ・ H30 : (Aゾーン) 園路整備・街灯設置・柵設置・植栽・給水設備等
- ・ R1 (施工中) : (Aゾーン) 遺構再現パネルの彩色・石積み護岸 (石出し1ほか)・ベンチ設置・舗装・植栽等
(Bゾーン) 遺構再現 (石出し2)・広場の造成・園路整備・柵設置・排水設備・ベンチ設置等
- ・ R2 (予定) : (Aゾーン) 防犯カメラ設置・サイン設置等
(Bゾーン) 遺構再現 (石出し3,4)・覆小屋設置・舗装・街灯設置・防犯カメラ設置・植栽・給排水設備・サイン設置・立体模型設置・柵設置

【史跡整備事業への協力・連携】

<Aゾーン>

- ・ 西川興業株式会社からの「石積み護岸用の石材」寄付 (約 139 t)
- ・ 復元文化財「宇治川太閤堤跡」を活用した「雨水貯留施設 (約 2,100 t)」

<Bゾーン>

- ・ 茶木の植樹 (三室戸小学校・一般)
- ・ 覆小屋の設置 (予定) 覆小屋の建築過程において、市民参加による段階的な建築体験イベントの実施

要求水準の展示構成に係る提案からの主な変更点と効果

展示企画業務の要求水準（抜粋）	提案	変更	効果
<p>宇治の歴史・文化の展示については、単に断片的な歴史的事実を表現するのではなく、宇治のまちの重層的な歴史・文化の中から複数のテーマに絞り込んで、それぞれにストーリー性を持たせるとともに、ミュージアム全体の展示を通じて宇治の歴史・文化が総合的に理解できるよう工夫すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史や文化に比重を置いた展示構成とし、展示順も「歴史」→「お茶」とする。 ・メインの展示テーマを太閤堤に定め、プロジェクションマッピングを用いてその意義を伝えることを主軸とする。また VR 宇治名所図によって VR 映像による宇治の魅力紹介を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治茶を中心とした宇治の歴史・文化とすることから、歴史とお茶の比率を同程度とし、また観光客に親しみやすい「お茶ゾーン」から「歴史ゾーン」へと展示順を変更する。 ・各ゾーンにメインとなるシアターを導入する。 ・お茶ゾーンは、宇治茶の歴史をアニメーションを用いてストーリー性を持った展開とする。 ・歴史ゾーンは、歴史の重層性のもとに成り立つ宇治のまちの魅力を紹介する映像とし、それぞれの軸となるストーリーを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客に親しみやすい「お茶ゾーン」から展示を始めることで、宇治観光への興味を促す効果が期待できる。 ・没入感のある大画面映像をそれぞれのゾーンに設けることで、「宇治茶」と「宇治の歴史・文化」のストーリーをわかりやすく紹介することができる。 ・宇治のまちの映像を VR から実写にすることで、よりリアルで美しい宇治のまちを紹介することができ、周遊観光へと誘う効果が期待できる。
<p>市内を中心とした周遊観光の促進を目的とした「宇治茶と宇治の歴史・文化」を総体的に情報発信するための常設展示を企画すること。なお、常設展示では、太閤堤の歴史に関する展示を含めた内容として企画すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「宇治茶と宇治の歴史・文化」の情報発信を実物資料とビジュアル、大型映像を用いた体験展示で展開し、その中で太閤堤を重要なトピックとする。 ・宇治茶の展示では、お茶の淹れ方や作法、宇治茶の製法など、体験型の展示とすることや、「宇治茶トリビア」として、お茶にまつわる言葉、エピソードや雑学などを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「宇治茶と宇治の歴史・文化」の情報をより分かりやすく発信するために「お茶ゾーン」と「歴史ゾーン」に分けた展示構成とする。 ・「お茶ゾーン」では、宇治茶の始まりからブランド茶として確立した歴史を紹介するとともに、「今日の茶作りの紹介」や「宇治茶トリビア」として、宇治茶に関することや宇治とお茶の歴史に 	<ul style="list-style-type: none"> ・「お茶ゾーン」と「歴史ゾーン」として展開することで、宇治の魅力をより伝わりやすく発信できる。 ・宇治茶ブランドとしての価値や、宇治茶の歴史・文化を様々な角度から紹介することにより、宇治茶への愛着が期待できる。 ・観光客にも馴染みやすい構成とすることで、より宇治の歴

		<p>関することを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史ゾーン」では、「平安時代」や「宇治橋」など観光客にも馴染み深いものや、現代のまちとの関係が深いものを発信し、周遊観光につながる構成とする。太閤堤については、屋外の復元文化財と連動させる構成とする。また、宇治ペディアとして、宇治の歴史や文化にまつわるエピソードや観光名所を紹介する。 	<p>史・文化に興味を持ち周遊観光へと誘う効果が期待できる。</p>
<p>展示企画の方法は、パネル・パンフレット等の従来型による展示に加え、ICT等を用いて、コンテンツによってはゲーム的要素や双方向的な仕組みを取り入れ、楽しみながら学習できるような展開を考慮すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「宇治茶と宇治の歴史絵巻」にゲーム性を持たせた体験展示を導入する他、VR宇治名所図として、自分がアバターとして入りこむ演出や観光スポットにおけるARによる演出とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治茶物語として、宇治茶の歴史を没入感あるダイナミックな3DCG映像と音響で展開する。 ・各コーナーにおいて、タッチパネルやハンズオンなどの体験性のある展示を展開する。 ・「名所図会に見る宇治」では、大画面の没入感あふれる映像で名所図会と実写映像による観光スポットの紹介や新名所図の制作と映像演出によってより魅力的な情報発信をする。 ・画像処理技術を用いたデジタルフォトスポットにより、楽しみながら観光スポットの体験ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・没入感あふれる映像をはじめ、タッチパネルやハンズオンなどの構成により、歴史・文化やお茶の魅力を楽しみながら学べる効果が期待できる。 ・名所図会からの実写と新名所図の二本構成とすることで、「宇治のまち」にある様々な観光スポットや四季折々の風景の美しさなどを発見できる効果が期待できる。 ・単なるフォトスポットではないデジタルフォトスポットにより、SNS映えの効果が期待できる。

<p>観光客の市内への周遊を促進するような工夫（位置情報と連動した展示内容等）を凝らし、観光満足度の向上に繋がる展示を行うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・展示のコンテンツで周遊のきっかけとなる情報を紹介し、宇治のまちをVR（仮想現実）映像化し、当時のまちなみを体験する展開とする。 ・スマートフォンに対応したアプリを用意し、それぞれの観光スポットでAR（拡張現実）として展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「名所図絵に見る宇治」の横に、観光スポットグラフィックを配置、スマートフォンに取り込むかたちでのスタンプラリーを構築する。 ・映像・グラフィックで市内の観光スポットを紹介。周遊ガイドゾーンで提供する情報を来館者のスマートフォンで情報を取り込むことができるだけでなく、来館者による投稿を可能にすることで相互の情報発信を実現する。 ・また観光情報と連動したスタンプラリーを制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像とスタンプラリーが連動することで周遊観光へと誘う効果が期待できる。 ・一方的に情報発信をするだけでなく、来館者も情報発信することで、最新情報が収集・発信できる。 ・スタンプラリーとすることで、単発の観光ではなく周遊を目的とした観光を促進し、更なる観光満足度の向上につなげる。
--	---	--	--